

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要しょう乱の概要&gt;

- 5日から6日は、低気圧が発達しながら北日本付近を通過する。
- 7日から8日は、発達した低気圧が千島近海に進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 9日は、高気圧が東シナ海に移動して西から冬型の気圧配置が緩む。

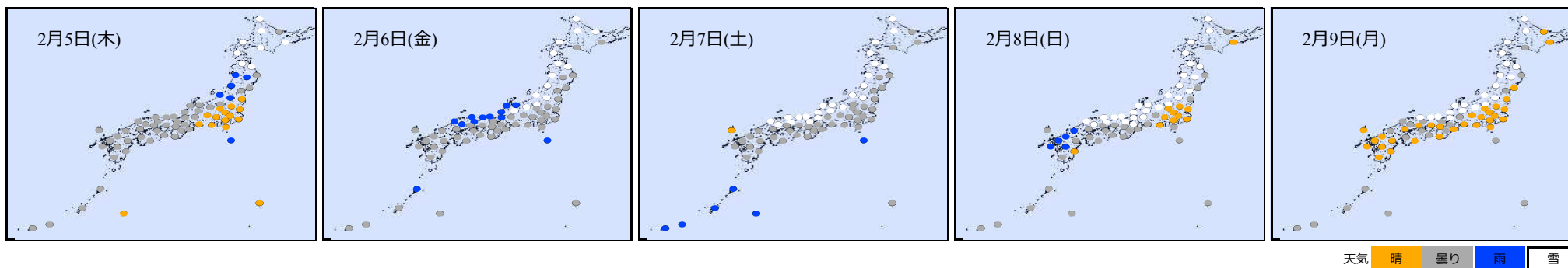
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 6日から7日頃にかけては、発達する低気圧の影響で北日本では大荒れとなるおそれがあり、低気圧の発達の程度等によっては大しけとなる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

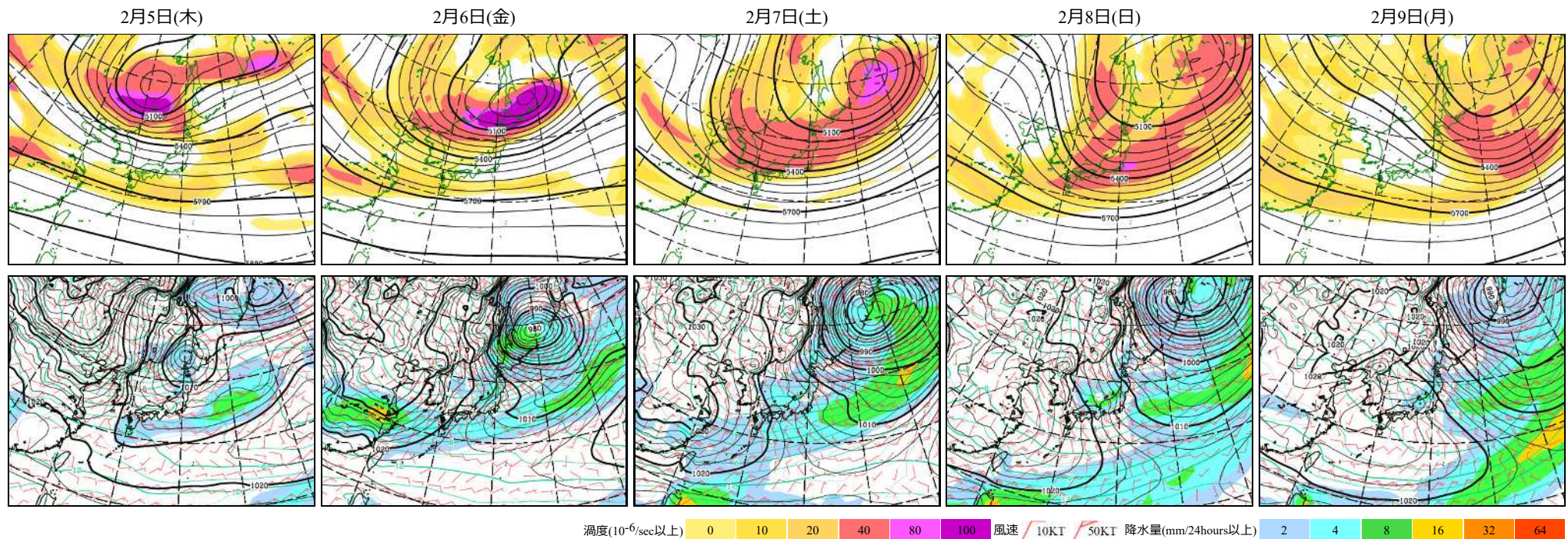
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



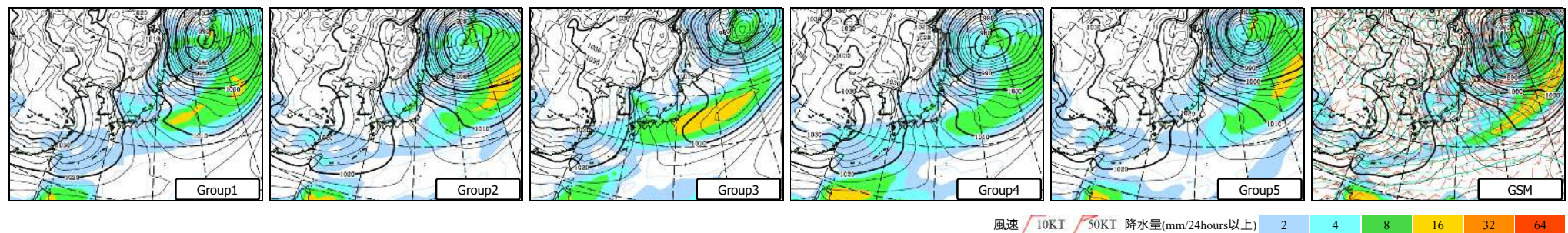
- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 西日本太平洋側は、曇りまたは晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りまたは晴れの日が多いが、6日と7日は雨の降る所がある。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月7日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、6日から7日にかけて中国東北区から朝鮮半島付近に進むトラフが浅くなり、8日にはこのトラフの東進が早くなった。地上では、5日から7日にかけて日本海からカムチャツカ半島付近に進む低気圧が強くなり、6日から8日にかけて大陸の高気圧の日本付近への張り出しが強くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、6日に西日本で小さくなった。
- 5日から6日にかけて、日本海からオホーツク海に低気圧が発達しながら進む予想は、各モデルで揃ってきたが、6日から7日にかけての気圧配置にはモデル間に差がある。8日にかけて冬型の気圧配置が強まり、9日に西から緩む予想は各モデルで一致している。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。